

会報

大会報告

2022 (令和4) 年度中部哲学会・研究大会ならびに総会は、9月24日(土)に愛知学院大学名城公園キャンパスで開催されました。当日は台風15号接近のため、Zoomミーティングでの配信も行いました。大会ならびに総会の議事は次のとおりです。

◇大会プログラム

○個人研究発表

- 1) 人間にとって目指すべき生としての「最も神的な生」—『ピレボス』を通して— 野村雄一
- 2) レオ・シュトラウスの『シンポジオン』論と「詩と哲学の論争」の始まり 薛健
- 3) 知識伝達と知識実践の認識論的問題：初期近代ドイツ語圏の言説を踏まえて 大林侑平
- 4) ヘーゲルによるカント倫理学批判—「ずらかし」Verstellungとはどういうことか?— 松井隆幸
- 5) ハイデガー哲学の「形而上学構想」から「転回」の意味 平川齊
- 6) メルロ＝ポンティに於ける、客観的世界と全客観的世界 渡辺亮
- 7) 苦痛とは病気なのか 堀江幸生
- 8) 「功利主義史観」から見たヒルベルト学派—ヒルベルトの方法論の質的変容— 井上朋彦
- 9) 展覧会「given」(1999)再考—集团的創造活動の観点から— 秋庭史典, 吉川遼
- 10) 若江薫子の女性教育思想—『女論語』を中心に— 鬼頭孝佳
- 11) 科学的存在論における認識的スタンスとしての還元主義 野村聡

○シンポジウム「ことばと尊厳」

- 1) 手話と哲学のこれまでとこれから 田中さをり
 - 2) コミュニケーションにおける不正義 三木那由他
 - 3) 悪口と尊厳 和泉悠
司会者 久木田水生
オーガナイザー 鈴木真
- シンポジウムは手話通訳つきで行った。

◇総会議事

- 1) 一般報告 この1年間の会員移動について、入会者10名、退会者5名、現在の会員数は176名であることが報告された。
- 2) 来年度の開催校について 金沢大学を開催校とし、大会・総会が開催されることが提案され、承認された。開催日は会場の都合を確認して調整する。
- 3) 年報の組版作業の外注について 年報はオンライン化するため、印刷代を組版作業の外注にまわして省力化することが承認された。
- 4) 委員の交代について 富山担当委員が永井龍男氏から宮島光志氏に交代した。

会員異動

◇令和4年度の新入会員の方々は次のとおりです。

中村大介
野上志学
野村聡
薛健
秋庭史典
青山太郎
上西晃生
井上朋彦
小島秀信
太田匡洋

◇令和4年度の退会者は以下の方々です。

- 梅澤弓子
- 鷺見コト江
- 真田郷史
- 田中末男 (逝去)

岡大学)

総務委員：久木田水生 (名古屋大学)
会計委員：鈴木真 (名古屋大学)
出版委員：松井貴英 (九州国際大学)
出版幹事：小林道太郎 (大阪医科薬科大学)
会計監査：吉田健太郎 (愛知教育大学)
藤本温 (名古屋工業大学)

2022年度中部哲学会役員

(任期：2021年4月1日～2023年3月31日)

委員長：奥田太郎 (南山大学)

委員：秋元ひろと (三重 三重大学), 北野孝志 (愛知 豊田工業高等専門学校), 篠原成彦 (長野 信州大学), 柴田和宏 (岐阜 岐阜大学), 三浦要 (石川 金沢大学), 宮島光志 (富山 富山大学), 吉田寛 (静岡 静

編集委員 (アイウエオ順)

委員長：奥田太郎

委員：秋元ひろと, 北野孝志, 小林道太郎, 久木田水生, 柴田和宏, 篠原成彦, 鈴木真, 松井貴英, 三浦要, 宮島光志, 吉田寛

中部哲学会年報 第55号

2024年5月15日発行

◎発行者 中部哲学会
(代表者 奥田太郎)

◎編集 (出版委員 松井貴英・小林道太郎)
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学文学部 中部哲学会事務局
cspjimu@gmail.com

◎郵便振替00860-2-38397